

皆様、おはようございます。

しのぎ易い気候になってまいりましたが、日中はまだ強い日差しを感じる時もあります。どうぞ体調にはお気を付けください。

先週の木曜日、イギリスのエリザベス女王が亡くなりました。亡くなったその日、イギリスの宮殿に虹が出たことが話題になりました。

聖書に書かれている「虹」と言いましたら、創世記9章が思い出されます。

9:1 神はノアとその子らとを祝福して彼らに言われた、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ。

9:2 地のすべての獣、空のすべての鳥、地に這うすべてのもの、海のすべての魚は恐れおののいて、あなたがたの支配に服し、

9:3 すべて生きて動くものはあなたがたの食物となるであろう。さきに青草をあなたがたに与えたように、わたしはこれらのものを皆あなたがたに与える。

9:11 わたしがあなたがたと立てるこの契約により、すべて肉なる者は、もはや洪水によって滅ぼされることはなく、また地を滅ぼす洪水は、再び起らないであろう。

9:12 さらに神は言われた、「これはわたしと、あなたがた及びあなたがたと共にいるすべての生き物との間に代々かぎりなく、わたしが立てる契約のしるしである。

9:13 すなわち、わたしは雲の中に、にじを置く。これがわたしと地との間の契約のしるしとなる。

9:14 わたしが雲を地の上に起すとき、にじは雲の中に現れる。

9:15 こうして、わたしは、わたしとあなたがた、及びすべて肉なるあらゆる生き物との間に立てた契約を思いおこすゆえ、水はふたたび、すべて肉なる者を滅ぼす洪水とはならない。

今日の聖書の個所の中にも虹が登場します。

3 その座にいますかたは、碧玉や赤めのうのように見え、また、御座のまわりには、緑玉のように見えるにじが現れていた。

黙示録1－3章は、島流しにされた使徒ヨハネに対して、主イエス様が書き記せと語られたこと、アジア州の七つの教会に宛てて記せと語られたことでした。

お褒めを受ける教会もあれば、お叱りを受ける教会もありました。しかしそれは、主のこのようなお考えによるものでした。

3:19 すべてわたしの愛している者を、わたしはしかつたり、懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい。

愛しているから。心配しているから。だから私は愛するものを叱ったり懲らしめたりする。

だから、熱心になって、ひたむきに、真剣に、熱狂的に悔い改めをなさい。心を入れ替えて罪にそっぽを向き、人生の行路を変えて私に向かって進みなさいと主は言われます。

かつては大水によって罪びとを滅ぼされた主でしたが、新しい契約を与え、もはや人を滅ぼさない。そのしるしとして虹を架けて下さいました。

そしてその新しい契約とは、イエス様が血潮を流していのちをささげ、私たちの罪のための身代わりとなり、贖いの死を遂げて下さったことにより成就したのではないのでしょうか。

天と地をつなぐ架け橋。その虹の根元を掘れば宝があるなどというお話もありましたが、神様は天からやって来られ、人として生まれ、贖いの御業を成し遂げたイエス様によって、道でありいのちであり真理であるお方によって私たちにいのちの道を開いて下さいました。

1 その後、わたしが見ていると、見よ、開いた門が天にあった。そして、さきにラッパのような声でわたしに呼びかけるのを聞いた初めの声が、「ここに上ってきなさい。そうしたら、これから後に起るべきことを、見せてあげよう」と言った。

天の門が開いたのは、私たちが天の門をくぐって天の玉座を見ることが出来るのは、ただただイエス様の十字架の贖いのゆえです。

「さきにラッパのような声でわたしに呼びかけるのを聞いた初めの声」それはこの聖句でした。

1:10 ところが、わたしは、主の日に御霊に感じた。そして、わたしのうしろの方で、ラッパのような大きな声がするのを聞いた。

1:11 その声はこう言った、「あなたが見ていることを書きものにして、それをエペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、ヒラデルヒヤ、ラオデキヤにある七つの教会に送りなさい」。

この七つの教会に書き記した後、主は天国の教会の姿をヨハネにお見せになりました。

「ここに上ってきなさい。そうしたら、これから後に起るべきことを、見せてあげよう」と言った。

2 すると、たちまち、わたしは御霊に感じた。見よ、御座が天に設けられており、その御座にいますかたがあった。

そのイエス様のお言葉の後、またも聖霊に感じ、聖霊に満たされたヨハネは、すうつーと、天国に引き上げられ、天の御座と、御座にいらっしゃいます神様を見ました。

3 その座にいますかたは、碧玉や赤めのうのように見え、また、御座のまわりには、緑玉のように見えるにじが現れていた。

何とも形容しがたいのですが、緑色にキラキラと光る碧玉や、赤く輝く赤めのうのように玉座におられる神様は輝いておられます。そしてその御座の周りには、エメラルドのように輝く虹が輝いていました。

神様の玉座には、ぐるりと燦然と輝く虹がかかっています。神様の玉座には救いがあります。誰一人、神様の赦しの恵みを得なければそこにたどり着くことは出来ません。イエス様の贖いのかけ橋を通らなければ、神様と人との間の深い断絶を乗り越えることは出来ません。

エペソ 2:11 だから、記憶しておきなさい。あなたがたは以前には、肉によれば異邦人であって、手で行った肉の割礼ある者と称せられる人々からは、無割礼の者と呼ばれており、

2:12 またその当時は、キリストを知らず、イスラエルの国籍がなく、約束されたいろいろの契約に縁がなく、この世の中で希望もなく神もない者であった。

2:13 ところが、あなたがたは、このように以前は遠く離れていたが、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近いものとなったのである。

2:14 キリストはわたしたちの平和であって、二つのものを一つにし、敵意という隔ての中垣を取り除き、ご自分の肉によって、

2:15 数々の規定から成っている戒めの律法を廃棄したのである。それは、彼にあって、二つのものをひとりの新しい人に造りかえて平和をきたらせ、

2:16 十字架によって、二つのものを一つのからだとして神と和解させ、敵意を十字架にかけて滅ぼしてしまったのである。

4 また、御座のまわりには二十四の座があつて、二十四人の長老が白い衣を身にまとい、頭に金の冠をかぶつて、それらの座についていた。

24人の長老。これは何を意味するのでしょうか。これはすべての聖徒を代表して主に仕える長老たちと理解できると思います。この人たちは、白くまばゆく光る衣を着て、神様の玉座の周りに座っています。

まさにこう書いてあつた通りです。

21 勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である。

頭には金の冠。冠と言えばこの御言葉が思い出されます。

1 コリント 9:23 福音のために、わたしはどんな事でもする。わたしも共に福音にあずかるためである。

9:24 あなたがたは知らないのか。競技場で走る者は、みな走りはするが、賞を得る者はひとりだけである。あなたがたも、賞を得るように走りなさい。

9:25 しかし、すべて競技をする者は、何ごとにも節制をする。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするが、わたしたちは朽ちない冠を得るためにそうするのである。

9:26 そこで、わたしは目標のはっきりしないような走り方をせず、空を打つような拳闘はしない。

9:27 すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない。

1 テサロニケ 2:19 実際、わたしたちの主イエスの来臨にあたって、わたしたちの望みと喜びと誇の冠となるべき者は、あなたがたを外にして、だれがあるだろうか。

2:20 あなたがたこそ、実にわたしたちのほまれであり、喜びである。

2 テモテ 4:5 しかし、あなたは、何事にも慎み、苦難を忍び、伝道者のわざをなし、自分の務を全うしなさい。

4:6 わたしは、すでに自身を犠牲としてささげている。わたしが世を去るべき時はきた。

4:7 わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。

4:8 今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。

1 ペテロ 5:1 そこで、あなたがたのうちの長老たちに勧める。わたしも、長老のひとりで、キリストの苦難についての証人であり、また、やがて現れようとする栄光にあずかる者である。

5:2 あなたがたにゆだねられている神の羊の群れを牧しなさい。しいられてするのではなく、神に従って自ら進んでなし、恥ずべき利得のためではなく、本心から、それをしなさい。

5:3 また、ゆだねられた者たちの上に権力をふるうことをしないで、むしろ、群れの模範となるべきである。

5:4 そうすれば、大牧者が現れる時には、しぼむことのない栄光の冠を受けるであろう。

黙示録 2:10 あなたの受けようとする苦しみを恐れてはならない。見よ、悪魔が、あなたがたのうちの者たちをためすために、獄に入れようとしている。あなたがたは十日の間、苦難にあうであろう。死に至るまで忠実であれ。そうすれば、いのちの冠を与えよう。

金と言えばこの御言葉が思い出されます。

1 ペテロ 1:4 あなたがたのために天にたくわえてある、朽ちず汚れず、しぼむことのない資産を受け継ぐ者として下さったのである。

1:5 あなたがたは、終りの時に啓示さるべき救にあずかるために、信仰により神の御力に守られているのである。

1:6 そのことを思って、今しばらくのあいだは、さまざまな試練で悩まねばならないかも知れないが、あなたがたは大いに喜んでいる。

1:7 こうして、あなたがたの信仰はためされて、火で精錬されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変るであろう。

信仰の精錬の中純度を高められた値高き金。その金で作られた冠、神様の慰めと労いの印とは、何と貴重なものでしょうか。

5 御座からは、いなずまと、もろもろの声と、雷鳴とが、発していた。また、七つのともし火が、御座の前で燃えていた。これらは、神の七つの霊である。

七つの霊。完全なる神様の霊であることが、黙示録の 1:4、3:1 にも記されています。決して消えることのないともし火として、七つの灯として記されています。

6 御座の前は、水晶に似たガラスの海のようにであった。御座のそば近くそのまわりには、四つの生き物がいたが、その前にも後にも、一面に目がついていた。

7 第一の生き物はししのようにであり、第二の生き物は雄牛のようにであり、第三の生き物は人のような顔をしており、第四の生き物は飛ぶわしのようにであった。

8 この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その翼のまわりも内側も目で満ちていた。

この四つの生き物とは何を意味するのでしょうか。

これもまた、すべての生き物の代表として登場しているのではないのでしょうか。

前にも後にも一面に目が、自由じづいに飛ぶことのできる六つの翼の表にも裏にも目で満ちていたとあります。想像するとぞっとするような姿ですが、これは彼らが絶えず四方を見守っていることを指します。見落とすことはないのです。神様の使いとして天から罪と悩みに満ちたこの地上世界を見渡すべき存在として働いているのではないのでしょうか。

この御言葉が思い出されます。

ローマ 8:18 わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする

栄光に比べると、言うに足りない。

8:19 被造物は、実に、切なる思いで神の子たちの出現を待ち望んでいる。

8:20 なぜなら、被造物が虚無に服したのは、自分の意志によるのではなく、服従させたかたによるのであり、

8:21 かつ、被造物自身にも、滅びのなわめから解放されて、神の子たちの栄光の自由に入る望みが残されているからである。

8:22 実に、被造物全体が、今に至るまで、共にうめき共に産みの苦しみを続けていることを、わたしたちは知っている。

8:23 それだけではなく、御霊の最初の実を持っているわたしたち自身も、心の内でうめきながら、子たる身分を授けられること、すなわち、からだのあがなわれることを待ち望んでいる。

8:24 わたしたちは、この望みによって救われているのである。しかし、目に見える望みは望みではない。なぜなら、現に見ている事を、どうして、なお望む人があろうか。

8:25 もし、わたしたちが見ないことを望むなら、わたしたちは忍耐して、それを待ち望むのである。

8:26 御霊もまた同じように、弱いわたしを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。

8:27 そして、人の心を探り知るかたは、御霊の思うところがなんであるかを知っておられる。なぜなら、御霊は、聖徒のために、神の御旨にかなうとりなしをして下さるからである。

8:28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。

思い悩みの世の中にありますが、神様は目を皿のようにして、目を凝らして、目を見開いて、私たちの呻きを見ておられます。六つの翼に乗って、執り成すものが駆け回り、見て、知り、神様のために働いています。

そして、昼も夜も、絶え間なくこう叫びつづけていた、「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者にして主なる神。昔いまし、今いまし、やがてきたるべき者」。

9 これらの生き物が、御座にいまし、かつ、世々限りなく生きておられるかたに、栄光とほまれとを帰し、また、感謝をささげている時、

10 二十四人の長老は、御座にいますかたのみまえにひれ伏し、世々限りなく生きておられるかたを拝み、彼らの冠を御座のまえに、投げ出して言った、

11 「われらの主なる神よ、あなたこそは、栄光とほまれと力とを受けるにふさわしいかた。あなたは万物を造られました。御旨によって、万物は存在し、また造られたのであります」。

困難の中にあっても、悲惨や混沌の中にあっても、失意と悲しみの中にあっても、天にあるのはただ賛美です。

昼も夜も、絶え間なくこう叫びつづけていた、「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者にして主なる神。昔いまし、今いまし、やがてきたるべき者」。

天では昼でも夜でも、主への絶大なる賛美の声がこだましています。

目を見開けば、大変な事、つらいこと、どうしようもないこと、ため息が出ることが多いのですが、それを見て見ぬふりをするのではなく、無きもののように思うのではなくて、しっかりと無数の目で見たとうで、それでもなお高らかに主をほめ歌うことのできる世界が天にあります。

昼も夜も、絶え間なくこう叫びつづけていた、「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者にして主なる神。昔いまし、今いまし、やがてきたるべき者」

10 二十四人の長老は、御座にいますかたのみまえにひれ伏し、世々限りなく生きておられるかたを拝み、彼らの冠を御座のまえに、投げ出して言った、

11 「われらの主なる神よ、あなたこそは、栄光とほまれと力とを受けるにふさわしいかた。あなたは万物を造られました。御旨によって、万物は存在し、また造られたのであります」。

天の御座という言葉が数限りなく記されています。そこが天の中心であり、また世界全ての中心でもあります。

このお方は「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者にして主なる神。昔いまし、今いまし、やがてきたるべき者」、「われらの主なる神よ、あなたこそは、栄光とほまれと力とを受けるにふさわしいかた。あなたは万物を造られました。御旨によって、万物は存在し、また造られたのであります」、こうあがめられ、賛美されるにふさわしいお方です。

私たちもまた、やがて後、引き上げられ、天の門をくぐり玉座にましますお方を仰ぐその時まで、どんなに辛い苦しい時があっても、天の御座で力強く昼も夜も止むことなくささげられている賛美を思い、いつも無数の目で見守られていることを思い起こし、天を見上げて進ませてもらいたいと願います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。天での壮麗な、おごそかな礼拝の姿を示してくださいまして、ありがとうございます。天の玉座には神様が座られ、あなたは天の中心にいらっしゃいます。長老も生き物も、昼となく夜となく、止むことなくあなたに賛美を捧げてい

ます。世界を見渡し、執り成し祈り、最後には栄光と誉れと力とを受け
るにふさわしい方の勝利がある、その力強い賛美が天にささげられて
います。その天での祈りと賛美に勇気と励ましを得て、そこに至るまで
信仰と希望と忍耐と謙遜、誠実さの中を行かせてください。子供からお
年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キ
リストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家
族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈りま
す。アーメン